

ナス

- 果菜類：ナス科の一年草（熱帯では多年草）
- 原産地：インド東部
- 日本の産地：高知、熊本、福岡

この野菜の基本的特性（環境適応性）

[温度] 生育適温 22～30℃。野菜のなかでも高温を好むほう。
[光] 生長や果実の着色には光線が影響。
[水] 深根性だが、乾燥に弱い。

[土] 土壌の反応幅が広い。非常に多肥を好む。また土の通気性を好む。排水不良や連作にすると青枯病が発生するので高畝や接ぎ木栽培にする。

見つける

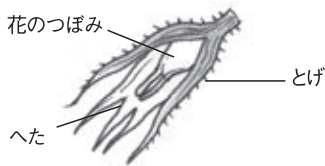
果実は夜に大きくなる？

へた（がく）の基部がもっとも伸張し、一晩で約1cmも伸びる。



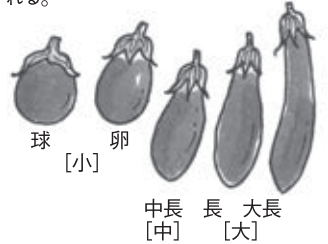
へたとげの役割は？

へた（がく）は葉が変形したもので、花を保護する役目。とげは外敵から身を守るためといわれる。



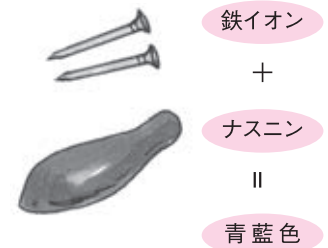
果形がさまざまなのはなぜ？

地方に土着して発達したため。大きさでは大・中・小、形では5つに大別される。



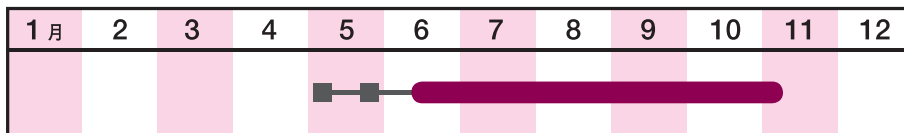
古釘を入れると青藍色になるのはなぜ？

果皮に含まれている色素ナスニンと鉄イオンによる反応。



果皮が薄く、緻密な肉質の若どりナスの栽培

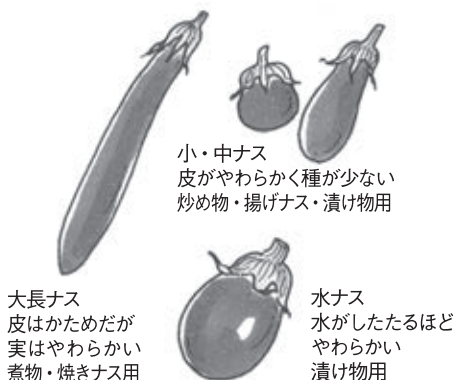
育てる



植えつけ

①用途に合わせて苗を購入する

品種が多いので、数種類選んで育て、利用の変化を楽しみたいもの。



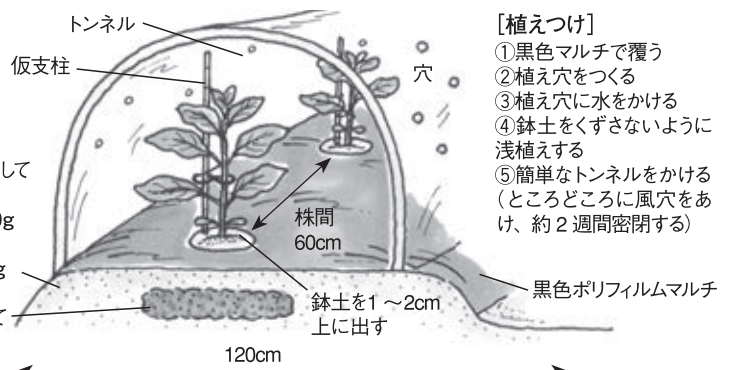
※購入苗の再育苗は P14 参照

②有機肥料主体に溝肥とする

購入苗は大鉢に植え替え、再育苗する (P14 参照)。多肥を好み長期の生育となるので、元肥は畝の中心を割って深く施す。

[元肥]
1㎡当たり
全層施肥分として
堆肥2kg
苦土石灰 200g
油粕 200g
PK化成 100g

割り肥分として
堆肥2kg
油粕 200g



[植えつけ]

- ①黒色マルチで覆う
- ②植え穴をつくる
- ③植え穴に水をかける
- ④鉢土をくずさないように浅植えする
- ⑤簡単なトンネルをかける（ところどころに風穴をあけ、約2週間密閉する）

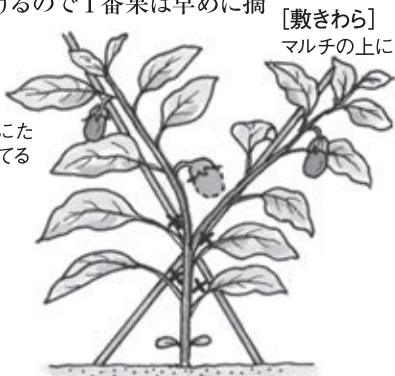
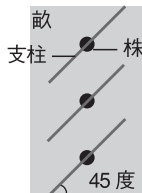
管理

④整枝して日当たりをよくする

光と肥料・水分で品質が決まる。1番花のすぐ下から出る枝1本を残し、主枝2本仕立て、または2本残し3本仕立てにする。株に負担をかけるので1番果は早めに摘み取る。

[支柱]

支柱は畝の方向にたがいし、45度に立てる



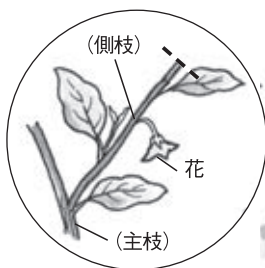
2本仕立て

⑤なり枝は摘芯して、絶えず更新

主枝から出た側枝(なり枝)には1花(果)を残し、余分な芽を摘んで元気な芽に移り替える。

[摘芯]

- ①花の上1葉残して摘む
- ②基部のわき芽を残す
- ③他のわき芽は摘み取る



⑥溝に油粕を施す

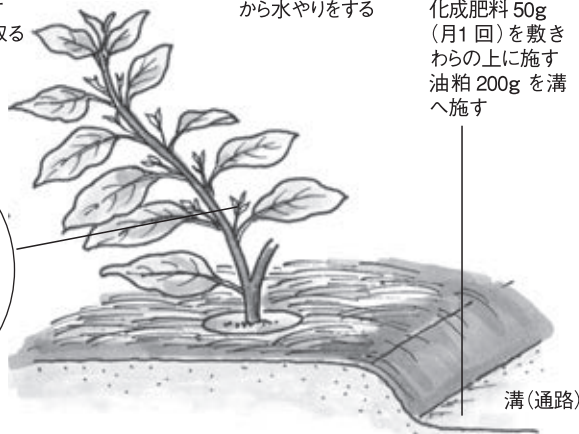
収穫期に入ってから水不足、肥料不足は、品質・収量に悪影響を及ぼすので補給する。

[水やり]

溝に水を引くか上から水やりをする

[追肥]

1㎡当たり
化成肥料 50g
(月1回)を敷きわらの上に施す
油粕 200gを溝へ施す



収穫

⑦整枝を兼ねて枝ごと収穫する

果実がついている下の強いわき芽(枝)を残し、枝ごと収穫する。



長ナスの場合

15~20cm
で収穫

若どりナス

幼果ほど果皮が薄く、肉質が緻密。胎座部位(スポンジ部分)の少ない長ナス系の若ナスは浅漬けにすると絶品。

食べる

[機能性と効果]

ポリフェノール
アントシアニン(ナスニン)

がんの予防、抗酸化作用
動脈硬化予防

〈上記のほか、体を冷やす作用がある〉

[持ち味の引き出し方]

- 料理法のレパートリーが広い
強い個性をもたないので、どんな調理にも合う。
- 漬け物には小形、焼きナスには大形
焼きナスは、強火でこげるほど香ばしく焼き、水けを切るのがコツ。
- 油との相性は抜群
油を使い高温で加熱すると、色あせず、あくが甘みが変わる。
- へたの下の基部はおいしいので捨てないで
生長したての若い部位なので、肉質が緻密。
- 秋ナスがおいしい理由
気温が低くなると、アミノ酸や糖度が増えてくるため。

[賞味期限]

常温で2~3日。時間とともにすかすかになるのでラップをかけ、13~16℃で保存するのがよい。

伝える

●独特の栽培方法がある

埼玉県内では、ナスの生産量が多いため本庄市では、V字形に支柱を立てて、全体を大きく育てる独特の露地栽培がみられる。背丈は2m以上にもなり、1本に次々と実がなる。その数は200個以上にもものぼる。

●先祖の霊を迎え送る

お盆にはナスやキュウリでウマを作り、盆棚に供え、先祖の霊を乗せて迎え送る風習があった。



●ナスの俗言

【親の意見となすびの花は千に一つも仇はない】ナスは両性花。「咲けばかならず実るように、親の意見もかならず役にたつ」の意味。
【秋なすは嫁に食わずな】おいしいので嫁に食わずのはもったいないからという説や、体を冷

やすので食べるな、という嫁への思いやりからという2説ある。
【やけのやんばち、日焼けのなすび】日焼けナスは煮ても焼いても食べられないものの代表。
【一富士、二鷹、三なすび】初夢のおめでたい順。「高いもの」順で、早場ナスの高値にかけた。